

病害虫発生予察注意報(第2号)

平成29年2月28日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：ハダニ類

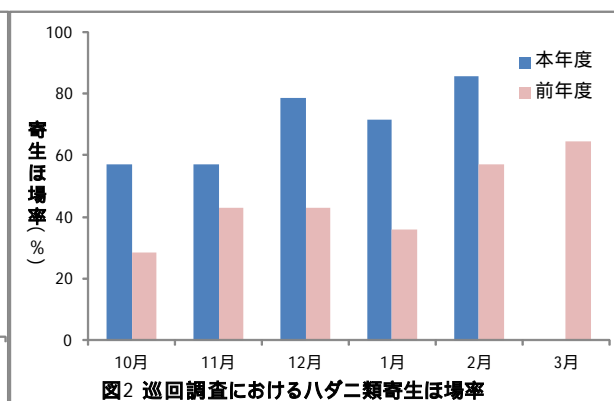
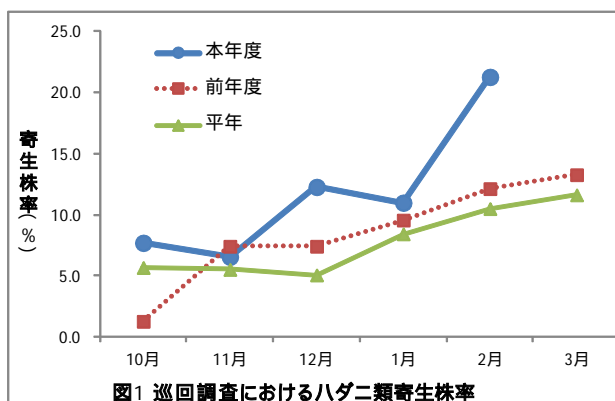
作物名：イチゴ

1 発生地域：県内全域（イチゴ栽培地域）

2 発生量：多

3 注意報発令の根拠

- (1) 平成29年2月のイチゴ巡回調査におけるハダニ類の寄生株率は21.3%と平年(10.5%)に比べて高い(図1)。
- (2) 平成29年2月の巡回調査では85%以上の調査地点でハダニ類の寄生が見られ、寄生株率、発生地点ともに1月から2月にかけて増加している(図1,2)。
- (3) 2月16日付け1ヶ月予報(気象庁発表)では、気温は高い傾向でありハダニ類の増殖に好適な条件が続くと考えられる。
- (4) イチゴのハダニ類は例年冬期から春期にかけて増加する傾向が見られるため、今後の増加が予想される。



4 防除対策

- (1) ほ場をこまめに観察し早期発見に努め、ハダニ類が増殖する前に早期に防除する。
- (2) ハダニ類が寄生した葉は、ほ場外に持ち出すとともに、周辺に放置せず適切に処分する。
- (3) ハダニ類は下葉の裏に多く寄生するので、下葉を整理し薬剤が葉裏にも十分にかかるよう丁寧に散布する。
- (4) 薬剤散布の際は系統の異なる薬剤でローテーション散布を行い、薬剤抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤も活用する。
- (5) すでにハダニ類が多発しているほ場では、1回の薬剤散布のみでは薬剤の付着ムラなどで効果が不十分となる場合があるので、効果を確認しながら数回散布する。
- (6) 天敵カブリダニ剤を放飼する場合は、天敵に影響のない薬剤を散布し、ハダニ類の密度を低下させた後、天敵を導入する。

5 防除薬剤

防除薬剤の例を表に示した。なお、農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守する。

表 薬剤例

| 薬剤名 | 作用機構 分類(IRAC コード) | 天敵に対する影響 | | | | | |
|--------------|-------------------------|----------|---|---|---------|---|---|
| | | ミヤコカブリダニ | | | チリカブリダニ | | |
| | | 卵 | 成 | 残 | 卵 | 成 | 残 |
| コテツフロアブル | 13 | - | - | 7 | - | - | - |
| カネマイトフロアブル | 20B | | | 0 | | | 0 |
| スターマイトフロアブル | 25A | - | - | - | - | - | - |
| ダニサラバフロアブル | 25A | - | | - | - | - | - |
| ダブルフェースフロアブル | 25B+21A | - | - | - | - | - | - |
| バロックフロアブル | 10B | x | | - | x | | - |
| マイトコーネフロアブル | 20D | | | 0 | | | 0 |
| コロマイト水和剤 | 6 | - | | 1 | - | - | - |
| 粘着くん液剤 | - | | - | | | - | |
| サフオイル乳剤 | - | - | - | - | - | - | - |
| アカリタッチ乳剤 | - | | | - | | | 0 |
| サンクリスタル乳剤 | - | - | | 0 | | | - |

注1) 天敵に対する影響は日本生物防除協議会資料を参考とした。

注2) 卵:卵に対する影響、成:成虫に対する影響、残:その農薬が天敵に対して影響のなくなるまでの期間で単位は日数。天敵に対する影響は、 :死亡率0~25%、 :25~50%、 :50~75%、 x:75~100%、 -:試験データなし、 :散布薬液乾燥後に天敵を導入する場合には影響がないが、天敵が存在する中で散布する場合には影響が出るおそれがある。

注3) 表中の影響の程度及び残効期間は目安であり、気象条件により変化する。

注4) カネマイトフロアブルは新葉の葉裏に薬害を生じることがある。

神奈川県農業技術センター
 病虫害防除部
 〒259-1204 平塚市上吉沢1617
 TEL 0463-58-0333
 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>